

喜多家の酒造業

喜^{きた}多家の一族は、貞^{じょう}享^{きやう}3年(1686)に野々市に移住し、灯油の製造販売業を始め、代々油屋治兵衛を名乗りました。明治時代からは酒造業に変わり、昭和50年(1975)頃まで酒造りを行っていました。



喜多家住宅(重要文化財)

主力の銘柄は「猩^{しょう}々^{じょう}」で、明治時代には製造の記録があり、喜多家が酒造業を畳むまで地域に親しまれました。「猩^{しょう}々^{じょう}」は、能の演目として知られます。親孝行者の高^{こう}風^{ふう}という者の徳^{とく}に感^{かん}銘^{めい}を受けた酒好きの伝説上の生き物である猩^{しょう}々^{じょう}が、無限に酒が湧き出る壺を与えるというめでたい内容です。

喜多家は他にも、「大^{おお}白^{しら}瀧^{たき}」「志^しら瀧^{たき}」「古^こ酒^{しゅ}」といった銘柄も製造していたことがわかっています。



明治35年(1902)
『石川郡史』広告より



本町三丁目の徳野菓子店の開店祝いに贈られた猩々
(昭和28年(1953)頃)